



学校教育理念：「**長**とした学校の共創」

教育目標：自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成



令和4年2月18日 14号 文責 長松小学校 校長 佐々木講吉

## 卒業式に向けて最善の努力を =人事を尽くして天命を待つ=

毎日のように送信されるコロナ関係の“はなまるメール！”に心配が尽きない事とご察しします。



メールでは、教職員と児童の感染者数をお知らせしていますが、保護者の感染者数も多い現実がございます。  
お見舞い申し上げます。

私が現在、校長として直面している心配は、感染の広まりから高校入学試験や、卒業式にも大きく影響するという事です。ご承知のとおり、唐津市の小中学校では学級に1人陽性者が出ると学級閉鎖とする基本方針があることから、私のみならず児童生徒や保護者にとっても深刻な問題です。

6年生は、昨年から様々な行事が中止になり不敏な思いをさせたにもかかわらず、不平不満を一言も言うことなくしっかり学校生活を送っています。そんなけなげな6年生には、一人残らずこれまでの成長に感謝し、新たな人生に夢や希望を抱いて巣立って欲しいと願っています。

現代社会では、感染症だけでなく事故などのハプニングがいつ起きるか予測できません。

気を付けていても巻き込まれることもあります。“**人事を尽くして天命を待つ**”私がかたく大切にしている言葉です。

## 人権感覚をご家庭でも！ =「うざい」、「デブ」等=

学校では、道徳だけでなく様々な機会を通して、いじめ防止の啓発を行っております。以下、学校運営協議会（会長 山口定男）で「いじめ防止標語コンクール」を実施しました。入賞作品を紹介します。



審査委員長賞 (金賞)	1年 井本 柊斗(いもと しゅうと) 「とげとげの ことばはいたいよ ころにも」
PTA会長賞 (銀賞)	4年 白石 悠人(しらいし ゆうと) 「どう思う？ 送信前に 考えて」
学校長賞 (銅賞)	6年 太田 瑚春(おおた こはる) 「自分にとって『いじり』でも 相手にとっては『いじめ』かも」
まつば賞	2年 前田 迅(まえだ じん) 「もってみよう つよいきもち やさしいころ」
	3年 袈裟丸 愛(けさまる あい) 「きづいてない マスクの中の かなしさを」
	5年 加茂 尋大(かも じんた) 「そのいじめ だれが笑ってだれが泣く？」

心の教育は、学校だけでは定着は難しいものです。現実には「うざい」や「デブ」などの暴言で、立場の弱い級友や下級生に悲しい思いをさせている事例もあります。



ぜひ家庭でも我が子との会話の機会を作り、「うざい」や「デブ」「チビ」など人権や人格を否定するような暴言は人を深く傷つけることになると話をしてみてください。

SNS 上では大人の誹謗・中傷も社会問題となっています。一番の教科書は大人の正しい言動です。大人が“**率先垂範**”で示しましょう。



長松小ホームページもご覧ください。学校行事予定や、子どもたちの学校での様子など画像も少しアップロードしています。スマートフォン、タブレット、パソコンからでもご覧いただけます。